

1 学校教育目標

生命尊重と人間尊重の精神を基調とし、自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応し、国際社会に活躍できる「徳・知・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。
 ・活発で礼儀正しい生徒 ・自ら学び、粘り強く努力する生徒 ・心身ともに健康で、心豊かな生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい中にも温かさを感じさせる学校 ・一人ひとりの生徒の良さを伸ばす学校 ・地域・保護者・生徒に信頼される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・真剣に学び、難しいことにも挑戦する生徒 ・礼儀正しく、自らの考えを表現できる生徒 ・自らを律し、夢に向かい自立していく生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を愛し、深く理解し、惜しめない指導と支援を行う教師 ・授業力向上に取組み、指導と評価の工夫・改善をめざす教師 ・組織の一員として建設的な提案をし、積極的に実践する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校の現状〉創立当時の伝統が引き継がれ、保護者・地域が学校支援に力を注いでくれる。PTA本部役員をはじめ多くの保護者は学校に対して協力的である。「開かれた学校づくり協議会」の委員を中心として、地域の学校への思いは強く貢献的である。生徒は全体的に明るく、人情味がある。多くの生徒は基本的な生活習慣が身に付いており、集団行動の質が高まっている。生徒会を中心に校風・良き伝統づくりのために努力している。

〈前年度の成果と課題〉魅力ある学校の創造に、学校・PTA・地域が一体となり努力を重ねた結果、学校の教育活動を肯定的に評価する生徒・保護者が多い。課題としては学校の特色化と魅力ある学校づくりが必要である。ここ2年間にわたり、コロナ禍のために、様々な取組が中止や延期となった。改めて生徒にとっての取組の意義をとらえた上、推進していきたい。さらに校舎が新しくなり、施設が充実した。生徒がいろいろな活動に積極的に取り組めるよう、最大限施設を活用していきたい。一部の生徒で規範意識が低い生徒が見られる。今後、様々な場面を通して規範意識を高めるとともに、自ら進んで学習に取り組む姿勢を育てる必要がある。特別な支援が必要な生徒に対しては、「青葉ルーム」を活用し、関係諸機関と連絡をとりながら支援していく。今後も一層の教師の指導力・授業力の向上を図り、規範意識や思いやりの心を育み、安全で健康な生活への意識向上を図ることが必要である。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	基本的な生活習慣の定着と心の教育の充実を図る	○	○	○		
3	魅力ある学校づくりと教育施設の活用を図る	○	○	○		

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学びの基礎・基本を定着させ学力向上を図る。		4年度区学力調査 目標通過率65% 年度末到達度テスト 正答率65%		区学力調査目標通過率 1年72%、2年62%、3年63% 年度末到達度テスト正答率 1年64%、2年59%		学習に対して前向きに取り組んでいるものの、学習内容が十分に定着していない生徒が多くみられる。今後、AIドリル等を活用し、個々に応じた学習が必要である。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	数学チームティーチング	全学年 数学科	通年 全授業	【指導体制】授業2名体制 【取組内容、ねらい・目的】授業内容の理解が不十分な生徒に、適切な個別指導	数学授業 アンケート	授業に意欲的に取り組めた生徒の割合を80%	数学の「学習意欲がある」と肯定的にとらえた生徒は87%と、高い水準にある。	講師によるTTを全学年で実施し、大半の生徒が意欲的に学習している。	○
2 継続	放課後補習教室 (AST)	全学年 英・数 正答率低い生徒	AST 補充日 放課後 20分	【指導体制】学年教員 【取組内容】演習を中心に個別もしくは少人数指導。 【使用教材】AIドリル	定期考査 (後期期末)	正答率40%を通過する割合が8割以上	正答率40%の目標値を通過した生徒は1年数57%、英76% 2年数64%、英81%	引き続き来年度も実施し、学習が定着していない生徒の学力を高める。	△
3 継続	サマースクール	全学年 国社数理英 全員	7月 下旬	【指導体制】学年教員 【取組内容、ねらい・目的】演習をクラスごとに実施。 【使用教材】自作教材	定期考査 (前期期末)	基礎・基本を定着させ、50点に満たない生徒を30%未満。	得点が50点に満たない生徒は1年30%、 2年39%、3年30%であった。	2年生で目標には到達しなかったが、全学年7日間実施することができた。	○
4 継続	学習コンクール	全学年 国社数理英 全員	年1回 ～3回 朝学習の時間	【取組内容、ねらい・目的】基礎学力に関するテストを行う。基準未滿の生徒には放課後学習を実施する。	各教科 学習テスト	達成基準は各教科により異なる。	各教科で1回、学習コンクールを実施。	生徒の学習意欲を高めているか検証して来年度の計画を立案する。	○
5 継続	家庭学習の定着	全学年 全員	年4回 6、9、 11、2 月	【取組内容、ねらい・目的】テスト2週間前を家庭学習定着期間と家庭学習記録表等で確認	家庭学習実施 状況調査	この期間に1日平均2時間学習した生徒を70%にする	調査期間では、3年生が77%だったが、全体の平均では60%で目標を下回った。	平日では家庭学習2時間以上の生徒が2割に留まっている。今後の改善が必要。	△
6 新規	放課後自習教室	全学年 全員	通年	【取組内容、目的】図書室のキャレルでAIドリルを活用し自ら学ぶ。	利用者数	一日平均10名以上	5、6名の日もあるが、多い日は20名を超える。	生徒に紹介し、放課後の活用をさらに伸ばす。	○

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学力向上を図るために、教員の指導力を高める。	・各教科で主体的で対話的な深い学びができています。授業評価で「授業が分かりやすい」「授業に意欲的に取り組んだ」と肯定的に答える生徒が8割以上	・各授業で下記の項目に沿った授業展開を行う。 ① ねらいの明確化 ② 主体的な活動 ③ 授業の振り返り ・OJTを推進し互いに授業研修を行い、指導力を高める。	・5科で「授業が分かりやすい」と肯定的に答える生徒は平均93%、「授業に意欲的に取り組んだ」と答える生徒が平均90%。 ・年2回、指導案を提出させる授業観察を実施。「学校は学力向上に積極的である」に対して肯定的な回答をした保護者は74%であった。	・継続して、授業改善に取り組む。足立スタンダードは定着し、対話的で深い学びを工夫して取り入れたい。 ・OJTの趣旨を踏まえた校内体制の一層の充実を図る。	○

重点的な取組事項－2	基本的生活習慣の定着と心の教育の充実を図る
-------------------	-----------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生活指導が全ての教育活動の根幹であるとの考えのもと、基本的生活習慣の定着、規範意識の向上、いじめを許さない心の教育を充実させる。	生徒および保護者アンケート調査で「学校に行くのが楽しい」と肯定的に答えた割合が8割以上	「学校に行くのが楽しい(様子)」と答えた生徒は86%、保護者も同様に88%	昨年に比べ、いずれも肯定的な答えが増えている。	○

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的生活習慣を確立し、規範意識を向上させる。	・常にきちんとした服装・頭髪を心がけさせ、「基本的生活習慣が向上した」と答える生徒80%以上 ・学校や社会のルールを理解し、守ろうとする。	・月1回の身だしなみ点検や朝のあいさつ運動を実施する。生徒指導では教職員が共通理解のもと共通実践する。 ・「素直な心」「我慢する気持ち」「規律ある生活態度」を掲げ、規範意識の向上に努める。	・「基本的生活習慣が今までより身についた」に対して「とても、少し」と答えた生徒は77%。また、保護者も肯定的回答が83%。 ・毎朝、教職員が分担して、あいさつ運動を行った。今年度はPTAや開かれと共催もできた。	・身についたと考えている生徒が8割に達しなかったが、身だしなみ点検で指導が必要な生徒は少ない。 ・遅刻は減っているが、今後も指導を継続。	○
悩みを抱えている生徒に適切な対応を行う。	・いじめが発生したときに早期の対応を行う。 ・特別支援教室に通っている生徒の授業満足度が70%以上。 ・年度末、登校できない生徒を10名未満。	・いじめ調査やQ-U調査を実施し、いじめ防止に努める。 ・特別支援教室の充実を図り、通級生徒のコミュニケーション能力を高める。 ・生徒一人一人にあった対応を考え、登校できない生徒を減らす。	・Q-Uを2回実施し、生徒理解に努めた。いじめと思われる生徒間のトラブルは、早急な対応を行い、重大事案になることを防いだ。 ・青葉ルームの満足度は9割。 ・年度末に登校できない生徒は16名。担任のケアで不正常ではあるが、登校し始めている生徒もいる。	・Q-Uの分析結果を活用。いじめには教員がアンテナを張り、早急な対応を心がける。 ・能力向上に努める。 ・改善が必要。来年度は30日以上欠席数を10名未満とする。	△
心の教育を推進する。	・道徳の授業を改善・充実を図り、思いやりのある生徒を育てる。	・道徳授業の成果が発揮できるような場面をつくる。研究授業を年2回実施する。	・道徳の研究授業を2回実施し、授業改善に結びつけた。 ・機会は少ないが、ボランティア活動を再開することができた。	・来年度も、道徳授業の改善を推進する。 ・来年度は、ボランティア体験を一層推進。	○

重点的な取組事項－3		魅力ある学校づくりと教育施設の活用を図る			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校の特色を鮮明にして、魅力ある学校を築く。新校舎の施設を有効に活用する。		本校の取組を、保護者および「開かれた学校づくり協議会」へのアンケート調査で肯定的回答が7割以上。	入学してよかったかというアンケートでは、生徒97%、保護者91%が肯定的に受け止めている。昨年度よりともに向上している。	・コロナ禍ではあるが予定していた学校行事やキャリア教育等がほぼ実施できた。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
ゲストティーチャーによる講演会を行い、広い視野で自ら生き方を考えさせる。	・学年毎に、成長段階に応じた学びに関する講演会を年2回実施する。	・前期はキャリア教育として経済同友会や留学生による講演会を、後期は個性の伸長や自己をみつめることをテーマとした講演会をPTAと協力して開催する。	・ゲストティーチャーや留学生によるキャリア教育を実施した。 ・後期はPTAと共催して、学年ごとに進路学習の講演会を実施した。1年生は財務省の方からマネー教室を受けた。	・来年度は、生徒の実態に合ったキャリア教育を展開したい。 ・生徒が自らの進路を考える契機となった。	◎
生活リズムの向上と食育の推進を図る。	・年度末の調査で朝食取得率が95%以上 ・「ベジファーストを意識して食事をしている」と答えた生徒70%以上	・「早寝、早起き、朝ごはん」を保護者にも啓発する。年間アンケート2回実施する。 ・食や健康について考えさせる機会をもたせる。	・2回のアンケートを通して、朝食の摂取率は93%だった。 ・「ベジファースト」については、81%の生徒がサラダから食べていた。「給食メニューコンクール」等の取組にも積極的に参加した。	・朝食に関しては、2回ともほぼ同じ生徒が摂っていなかった。保護者の理解が必要。 ・ベジファーストの意識は高まっている。	◎
感染症予防が強く求められる中でも、魅力ある教育活動を行い、発信する。	・スポーツやカルチャーイベントを年間5回以上開催する。 ・学校の様子を保護者や地域に毎日発信する。	・「開かれた学校づくり協議会」と連携し、イベントやボランティア活動を推進する。 ・ホームページを毎日更新し、生徒の様子や様々な情報を保護者や地域に提供する。	・協議会と連携し3年ぶりに花育を実施した。コロナ禍の制限はあったが、運動会や文化祭等の学校行事を実施した。 ・毎日、ホームページを更新し、学校の情報等をお知らせした。	・来年度は従来通り、ボランティア活動を再開し、活動を促進。 ・今後も、地域の一員として活躍できる生徒を育てていく。	○
読書教育の推進	・年間読書10冊以上の生徒を50%以上にする。	・年間を通して朝10分の読書を継続。授業などで図書室の活用を推進する。 ・ビブリオバトルやポップ作りを特活の中に取り入れる。	・朝読書を継続、ビブリオバトルやポップ作りを実施して、図書室の利用を推進した ・5冊以上読んだ生徒は5割であったが、10冊以上の生徒は3割にとどまった。	・新校舎では図書室が充実しており、これを活用し、読書の啓発を図る。	△

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【今年度の成果】タブレットなどICT機器の活用も進み、「授業が分かりやすい」と肯定的に回答した生徒は9割を超えている。また、ほとんどの生徒が授業に意欲的に取り組んでいる。自分の思いや考えを表現し伝える力の育成が進んだ。

【次年度に向けた課題】区の学力調査では、全学年平均としては正答率が目標値に達した。しかし、一方では基礎学力が不足している生徒がいる。その原因としては、家庭学習が定着していないことが大きいと考えられる。また、読み解く力が不足している生徒も見られることも課題である。

【解決の方向性】国語では教科指導を通して読み解く力を高めるようにする。数学ではAIドリルを効果的に活用して学習の定着を図る。英語では少人数学習の利点を生かし、話す機会を多くもたせる。読書習慣が身に付いていない生徒が多いので、総合的な学習の時間でビブリオバトル等を取り入れ、さらに新校舎となり、図書室が充実したことから読書教育の充実を図る。また、家庭学習については保護者の協力を得て一層の啓発を進めるとともに、今後も放課後のASTを活用した各種コンテスト等の計画的な実施を継続して行う。

イ 基本的生活習慣の定着と心の教育の充実について

【今年度の成果】朝のあいさつ運動や身だしなみ点検を実施し、ほとんどの生徒が基本的生活習慣を身につけている。生徒会を中心に学校のきまりを考えさせることで、生徒の規範意識を高めることにつながった。いじめと思われる行為に対しては早急な対応を行い、重大事案になることを防いだ。道徳などいろいろな場面で、生徒の心の教育が推進された。

【次年度に向けた課題】特別に支援が必要な生徒が多くみられる。また、不登校傾向のある生徒も多くおり、改善が必要とされる。

【解決の方向性】生徒の問題行動に対して、状況を的確にとらえ、生徒の心情を踏まえながら指導していく。特別に支援が必要な生徒に対しては、「青葉ルーム」を活用し、コミュニケーション力を高めていく。不登校の生徒を減らすため、関係諸機関と連携しながらスモールステップで対応していく。個別に対応を考え、保護者と協力しながら、一人でも、一日でも多く登校できるように、教職員が協力して取り組む。

ウ 学校の特色化と魅力ある学校づくりについて

【今年度の成果】コロナ禍ではあったが、学校行事を実施することができた。全力で取り組む姿がみられ、生徒の満足度も高い。ゲストティーチャー授業も昨年度以上に実施することができた。朝食の摂取やベジファーストなど食育の推進を継続して行うことができた。新校舎となり、新しい設備を活用しながら、教育活動を行うことができた。

【次年度に向けた課題】引き続き魅力ある学校に向けて、学校の特色化を図る。コロナ禍で地域との結びつきが少なかったため、情報発信の機会を増やしていく。さらに、新校舎の施設をいかに有効に使い、成果に結びつけるかが大きな課題となる。

【解決の方向性】開かれた学校づくり協議会と連携し、行事や取組の中で保護者や地域の声を反映していく。コロナ禍を通して学んだことを、行事やその内容の精選に結びつける。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

【保護者の皆様へ】

千寿青葉中学校の教育活動は、保護者の皆様のご支援とご協力、さらに学校との協働により支えられています。私たち教職員は、生徒の実態をふまえ、保護者・地域の皆様の要望にできる限り応えられる教育を展開していく所存です。自分の夢に向かって「自立」する生徒の健全育成のためにご理解とご協力をいただければ幸いです。

【地域の皆様へ】

皆様の協力を得て、素晴らしい校舎が完成しました。これからも地域の学校であることを自覚し、地域の皆様の学校に対する熱い思いや願いに応えることができるよう努力してまいります。昨年、一昨年と2年間、コロナ禍のために地域との連携がほとんどできませんでした。今年度は開かれた学校づくり協議会とともに取り組みを再開しました。今まで以上に地域に信頼される学校を作ってまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。